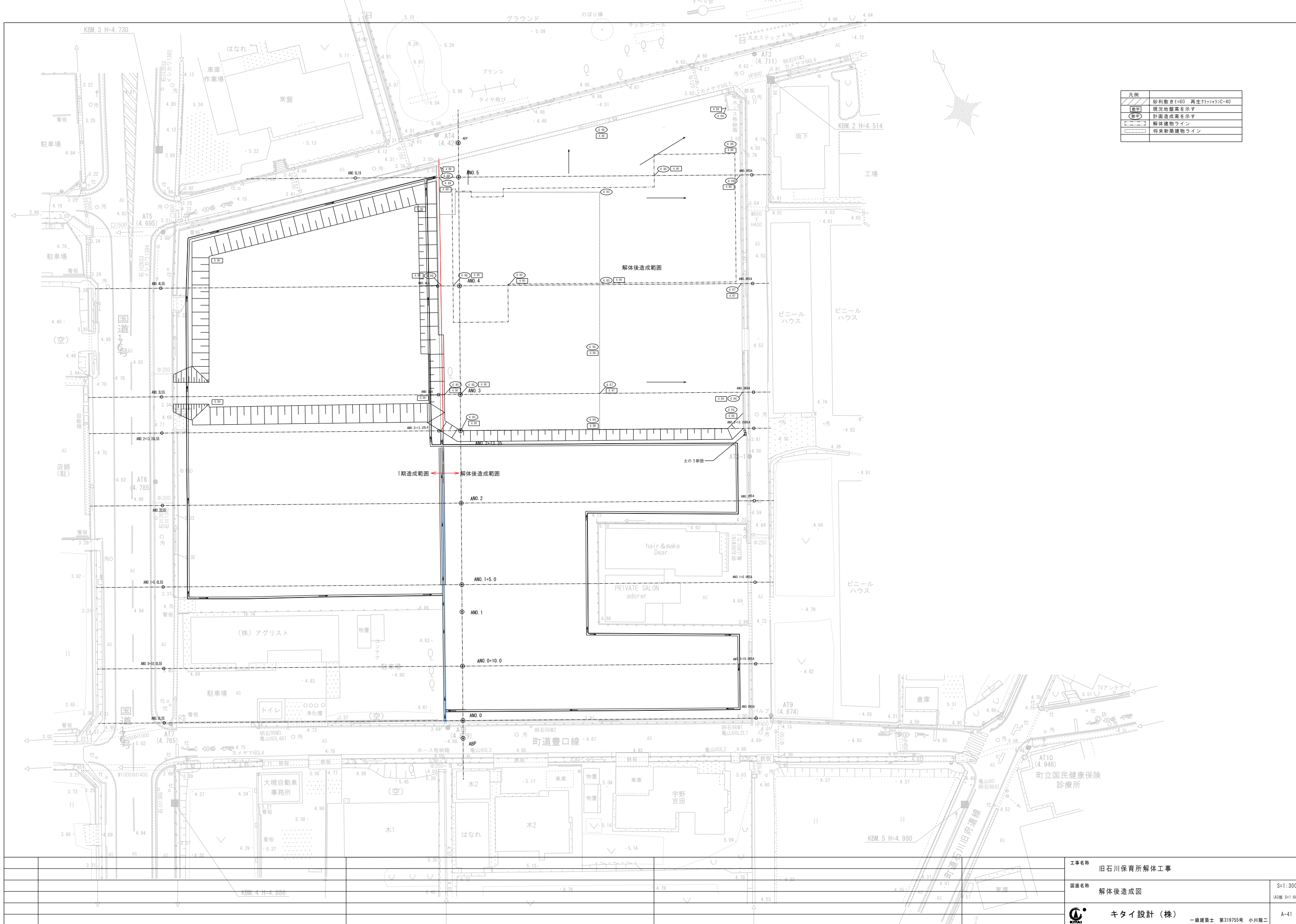


凡例	
	解体対象建築物を示す
	仮囲い 成形鋼板 (H=3000) を示す
	キャスターゲート W=6.0m×H=1.8m
	鉄板敷き t=22
	交通誘導員A
	工事出入口
	枠組本足場 (手摺先行方式) W=600を示す ※設置シート張 (解体建物周囲に適宜設置のこと)

特記事項	
・敷地内での工事車両の通行は最後とし、工事車両出入口付近は常に清掃すること	
・本図面における仮囲い、工事車両の進入計画及び配置等の仮設計画については参考程度とし、現場確認の上、仮囲い仕様、再度出入経路、方法についての計画及び仮設計画を立案し、監督係員と協議を行うこと	
・監督係員と連絡をとること (工事等)	
・各関係法規 (規制等) を遵守すること (各官庁への申請は、請負者が行うこと)	
・工事期間中、資材搬入に利用する公共道路用部、工事敷地周辺住民及び関係者等に配慮し、工事により発生する騒音、振動、粉塵の制御に努めること	
・常に整理、清掃を心掛けること	
・安全管理は確実にを行うこと (交通誘導員、安全監視員の設置等)	
・建物等解体撤去後は、埋め戻し整地を行うこと。	
・工事車両通行路にある既存建物、樹木、金庫及びマンホール等については、工事車両の通行により損傷なきよう十分養生等の措置を講ずること	
・既存施設を破壊させないこと。万一破壊させた場合は請負者の責任で復旧のこと	
・工事車両進入路と周辺道路利用者等の通路が交差する場合は、工事車両の通行を停止し、安全に配慮すると共に交通安全誘導員を配置し、車両の誘導をはかること	
・仮囲い内の雨水、排水処理は図示なくも適切に行うこと	
・洗車装置 (高圧洗浄装置等) を工事現場出入口に適切に設け、泥土等が場外へ飛散することがないようにすること。(他に泥土等の飛散が防げれば、この限りでない)	
・設計図書に記載の内容および工事に必要なものについては、数量書に記載が無くとも受注金額の範囲において施工を行うこと。設計図書の内容に相違がある場合や明記のない場合は、監督員と協議を行い、軽微な場合は受注金額の範囲内にて施工を行うこと。各部の納まり、取り合いの関係で材料の寸法、取付位置、取付方法の変更など、軽微な増減となる変更の場合は、本工事範囲内とする。	
・工事費額 (施工計画書・施工費額書・材料承認書等) は、監督員の指示により遅延なく提出すること。	

工事名称	旧石川保育所解体工事	
図面名称	仮設計画図 (参考図)	S=1:200 (A3版 S=1:400)
設計者	キタイ設計 (株)	A-40
資格	一級建築士 第319755号 小川龍二	



凡例	説明
数字	砂利敷きt=60 再生コンクリートC-40
数字	現況地盤高を示す
数字	計画造成高を示す
---	解体建物ライン
---	将来新築建物ライン

工事名称	旧石川保育所解体工事	
図面名称	解体後造成図	S=1:300 (A3版 S=1:600)
設計者	キタイ設計(株)	A-41
施工者	一級建築士 第319755号 小川龍二	

1. 一般事項 (本図は(社)建築協会編「建築工事共通仕様書」に記載のものによる)

a. 共通事項
設計図面に特記のない場合は、全て本規準によるものとし、本規準に記載なき場合は、関係の指示による。

b. 使用材料 (◎印は使用の事) (使用場所)

コンクリート種別	普通コンクリート	()
	軽量コンクリート	()
	水密コンクリート	()
コンクリート設計基準強度 (Fc28 = Kg/cm ²)	150	()
	180	()
	210	()
	225	()
	240	()
	270	()
鉄筋	丸鋼	()
	異形鉄筋	()
	SR-24	()
	SR-30	()
	SD-30	()
	SD-35	()
	SD-40	()

c. その他

2. 鉄筋表示 (SR-24を使用の場合は、D (番号) と ◎ (丸鋼) と読み替える)

鉄筋径	記号	鉄筋径	記号	鉄筋径	記号
10φ	9	19φ	19	29φ	29
13φ	13	22φ	22	32φ	32
16φ	16	25φ	25		

3. 鉄筋加工

※ 折り曲げは原則として冷間加工とする。

a. 主要部

鉄筋の折曲げ角度	使用箇所	図	鉄筋の種類	鉄筋の折曲げ寸法(D)	鉄筋の折曲げ寸法(D)	鉄筋の折曲げ寸法(D)
80°	柱の主筋 6d以上の長筋 主筋		SR24, SDR24	3d 以上	5d 以上	4d 以上
			SRR24, SD24			
135°	stirrup hoop		SR24, SDR24	3d 以上	5d 以上	6d 以上
			SRR24, SD24			
90°	13d以下の長筋 主筋 螺旋筋 螺旋筋		SR24, SDR24	3d 以上	5d 以上	8d 以上
			SRR24, SD24			
90°	(i) stirrup hoop spiral- hoop		SR24, SDR24	3d 以上	5d 以上	5d 以上
			SRR24, SD24			
90°	(ii) 床筋 等筋		SR30, SD30	4d 以上		
			SD35			
90°	(iii) (ii)以外の 鉄筋		各種	16mm 以下	5d	
				19mm 以上	(iii) 以上	
				28mm 以上	6d 以上	
				異形鉄筋は 25mm 以下		
				上記以外の 鉄筋	8d 以上	

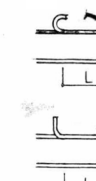
c. 下に示す鉄筋の末端はフックを付ける

- (i) 丸鋼の末端は必ずフックを付ける
- (ii) 異形鉄筋の場合
 1. stirrup, hoop, spiral, hoop, diagonal, 止筋
 2. 柱主筋の出隅部、柱手及び最上階柱主筋の鉄筋全て
 3. 壁主筋の出隅部の鉄筋
 4. 埋込鉄筋
 5. 片持スラブの支筋、上筋
 6. 基礎壁筋の支筋 (根元打込みの場合)
 7. 足場継手長さ2m未満取付金具の埋込筋

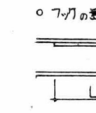
4. 継手

a. 重ね継手

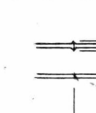
○フックの有無



○フックの無い場合



b. 圧着



鉄筋種類	コンクリート	L				A
		普通コンクリート	軽量コンクリート	普通コンクリート	軽量コンクリート	
SR24	210 以上	35d	40d	35d	40d	17d かつ 25mm
	210 未満	45d	50d	45d	50d	
SD30	210 以上	30d	35d	30d	35d	17d かつ 25mm
	210 未満	35d	40d	35d	40d	
SD25	210 以上	d	d	d	d	17d かつ 25mm
	210 未満	d	d	d	d	

※ 重ね継手 D16 以下は、圧着 D19 以上とする。
※ d は鉄筋の公称直径で、任意の異径の鉄筋の継手にあつた場合は、その径とする。
※ 埋込鉄筋の重ね継手では、異径の埋込鉄筋に於いては、その径の大きい方の径とする。
※ 埋込鉄筋の重ね継手では、異径の埋込鉄筋に於いては、その径の大きい方の径とする。
※ 鉄筋の埋込継手は、現場施工時に鉄筋を振る取り切断したものを使用する。

5. 定着

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 (Kg/cm ²)	普通コンクリート				軽量コンクリート				
		150 以上 210 未満	210 以上 240 未満	240 以上	150 以上 210 未満	210 以上 240 未満	240 以上	150 以上 210 未満	210 以上 240 未満	240 以上
SR24	L1	45d	35d	35d	50d	40d	40d			
	L2	25d	25d	25d	30d	30d	30d			
	L3	15cm	15cm	15cm	15cm	15cm	15cm			
SR30	L1	30d	25d	25d	35d	25d	25d			
	L2	15d	15d	15d	20d	20d	20d			
	L3	10d かつ 15cm 以上 (7-7mm)	10d かつ 15cm 以上 (7-7mm)							
SD35	L1	35d	45d	30d	40d	30d	40d			
	L2	15d	15d	15d	20d	20d	20d			
	L3	10d かつ 15cm 以上 (7-7mm)	10d かつ 15cm 以上 (7-7mm)							

※ L1 : 一般
L2 : 床下の主筋、壁筋、埋込筋
L3 : 床下の主筋
※ 埋込鉄筋の埋込部分における定着は、支保材表面から異径の埋込筋 L1+5 かつ 15 以上とする。

6. 鉄筋の折曲げ寸法、間隔、あき

a. 鉄筋に対するコンクリートの折曲げ寸法の最小値 (Cmm)

コンクリートの種類	鉄筋の種類	普通コンクリート			軽量コンクリート (12種)			
		C1	C2	C3	C1	C2	C3	
土中埋	柱	仕上がりあり	2	3	—	2	3	—
		仕上がりなし	3	4	—	3	4	—
	梁	仕上がりあり	3	4	—	3	4	—
		仕上がりなし	3	4	—	3	4	—
埋込	仕上がりあり	3	4	—	3	4	—	
	仕上がりなし	4	5	—	4	6	—	
土中埋	柱	4	5	—	4	6	—	
	梁	4	5	—	4	6	—	
埋込	柱	4	5	—	4	6	—	
	梁	4	5	—	4	6	—	
埋込	柱	4	5	—	4	6	—	
	梁	4	5	—	4	6	—	

b. 主筋に異径鉄筋を用いる場合、主筋に対する折曲げ寸法は 15d 以上とする。

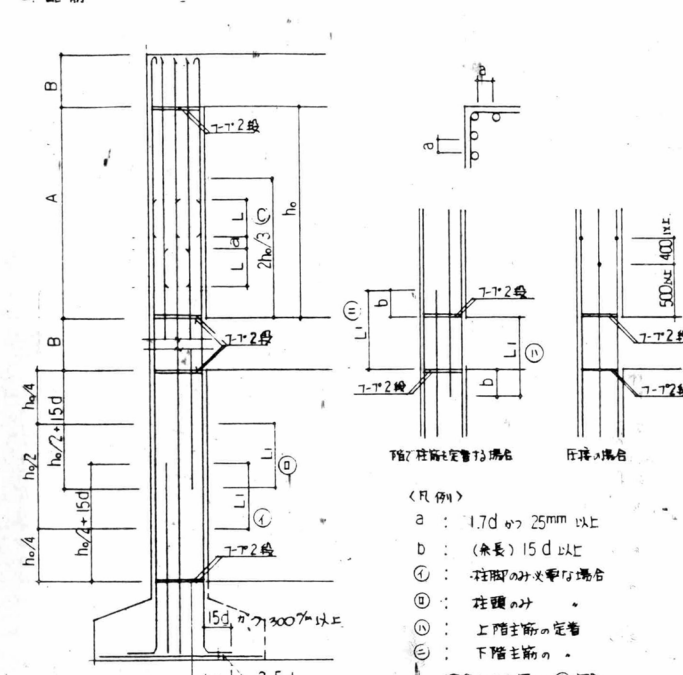
c. 鉄筋の折曲げ寸法は a, b のうち大きい方とする。

d. 折曲げ寸法の差はコンクリート打込みとする。

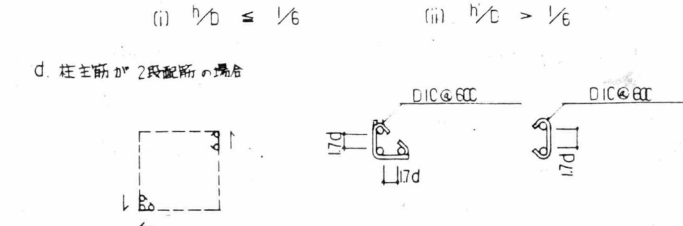
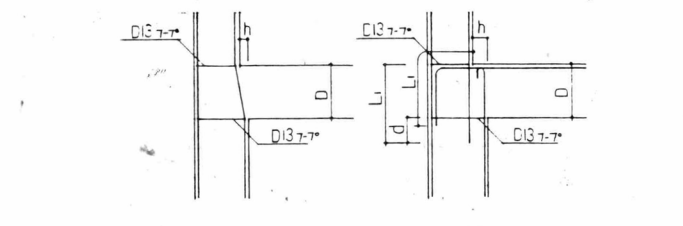
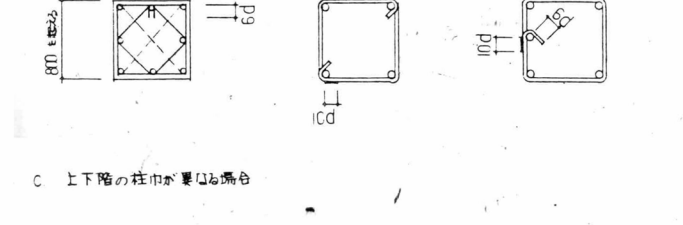
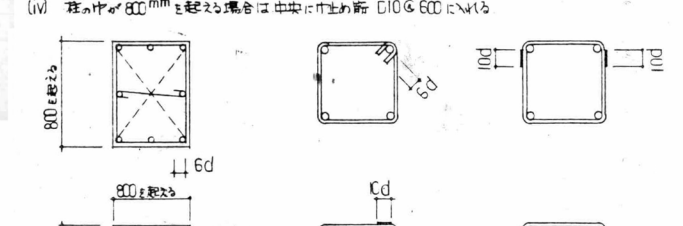
図	間隔	あき
	鉄筋径の25倍 埋込材最大寸法の125倍+鉄筋径	鉄筋径の15倍 埋込材最大寸法の125倍+25mm
	公称直径(D)の27倍 埋込材最大寸法の125倍+最大寸法	公称直径(D)の27倍-鉄筋径の半 埋込材最大寸法の125倍+25mm

7. 柱

a. 配筋

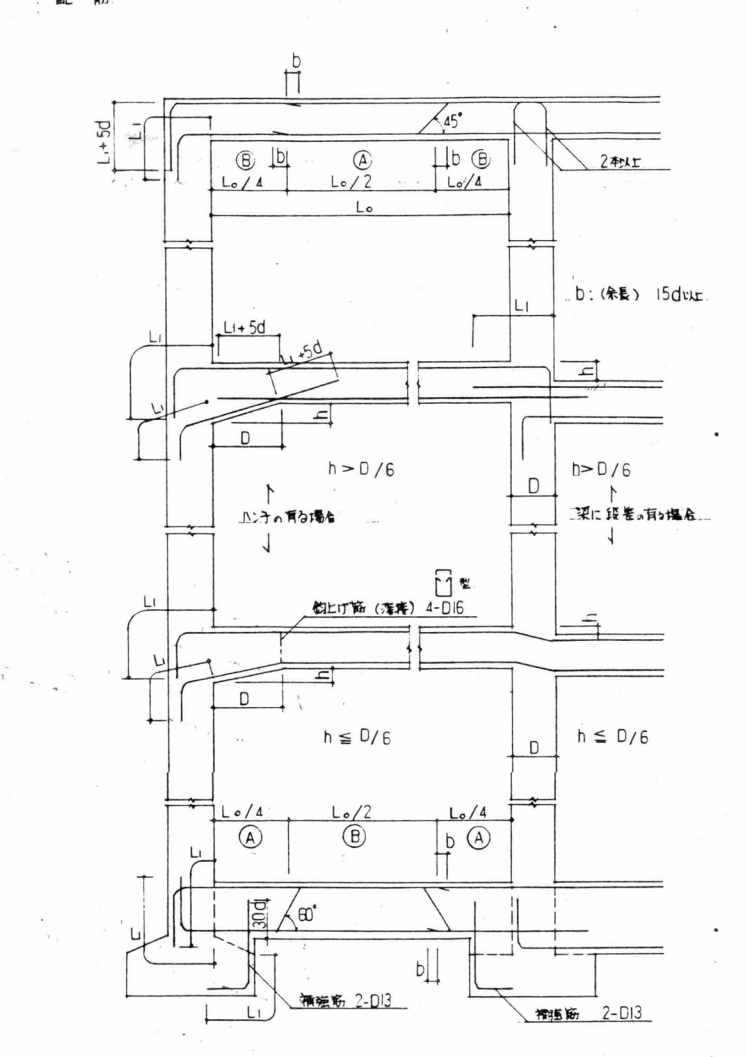


(凡例)
a : 1.7d かつ 25mm 以上
b : (余長) 15d 以上
c : 柱筋の仕上がり場所
d : 柱筋の仕上がり場所
e : 柱筋の仕上がり場所
f : 柱筋の仕上がり場所
埋込鉄筋位置は c 参照



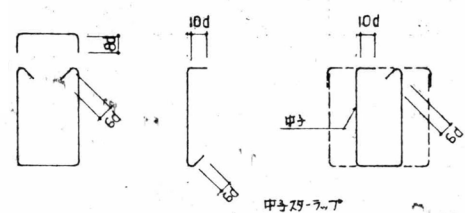
8. 大梁

a. 配筋



- (i) 最上階と連続梁の上端筋は、半径以上かつ 2 以上と柱筋に定着させる。
- (ii) 梁筋を柱筋に定着する場合の見込み長さは、柱径の 1/2 以上とする。
- (iii) 標準相対位置は、上端筋 ① 部、下端筋 ② 部、ハズレ筋 Lo/4
- (iv) 地中埋、埋込筋は、埋込材表面から異径の埋込筋 L1+5 かつ 15 以上とする。

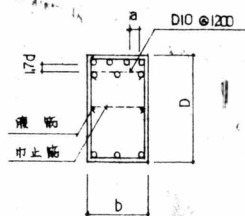
D. スラブ補強筋 (i) 形状



(ii) 標準ピッチ

梁巾	b ≤ 170	170 < b ≤ 200	200 < b ≤ 250	250 < b ≤ 350	350 < b ≤ 450	450 < b ≤ 650	650 < b
鉄筋	1-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	3-D10	筋配に依る
ピッチ	200	250	200	150	150	150	同上

C. 壁筋

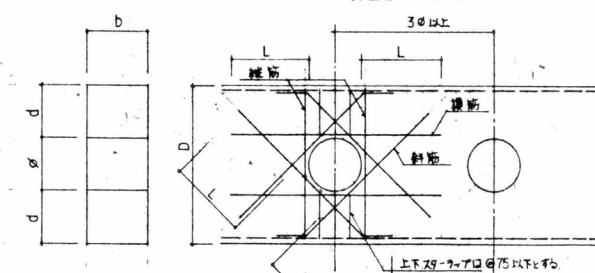


D < 600	なし
600 ≤ D < 900	2-D10
900 ≤ D < 1200	4-D10
1200 ≤ D < 1500	6-D10

(注) 巾止筋はD10φ600
定中梁の場合は欄間巾止筋をD13とす

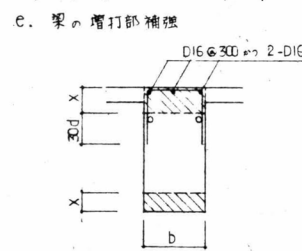
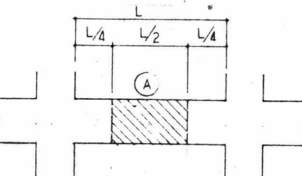
d. 梁貫通補強筋

(注) 巾止筋の取付方法は図に示す通りとする

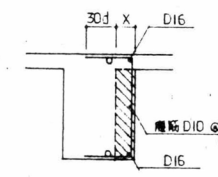


(i) 筋配に依る補強筋の取付方法 (詳細は筋配に依る) φ: D/3 以下

φ	a	b	d	鉄筋	鉄筋	鉄筋	上下スラブ
≤ 100	≤ 400	≥ 150	2-D10	2-D13	2-D13	□-D10	
			400 < b ≤ 600	≥ 180	2-D10	3-D13	3-D13
≤ 200	≤ 400	≥ 150	2-D13	2-D13	2-D13	□-D13	
			400 < b ≤ 600	≥ 150	2-D13	3-D13	3-D13
≤ 250	≤ 400	≥ 200	2-D13	2-D16	2-D16	□-D13	
			400 < b ≤ 600	≥ 200	2-D13	3-D16	3-D16
≤ 300	≤ 400	≥ 250	2-D13	2-D19	2-D16	□-D13	
			400 < b ≤ 600	≥ 250	2-D13	3-D19	3-D16
≤ 350	≤ 400	≥ 250	4-D13	2-D22	2-D19	□-D13	
			400 < b ≤ 600	≥ 250	4-D13	3-D22	3-D19



(A) 配筋内径100以下の補強筋は不要

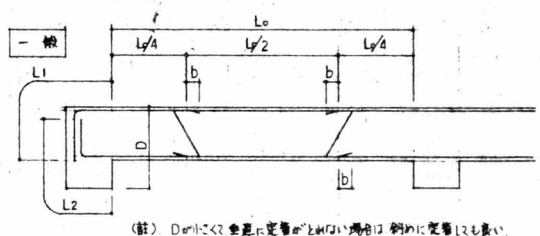


(i) □型筋はコ字鉄筋はD10とし、スラブと同一とする

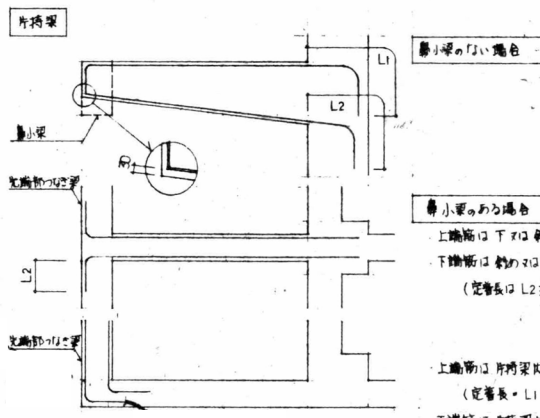
(ii) X寸法が80以下の場合は補強不要

9. 小梁

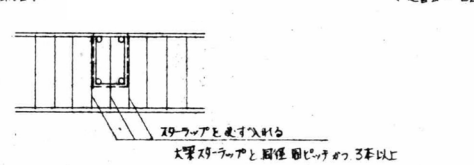
a. 配筋



(注) Demilitarized zone 位置に定着部としない場合は斜めに定着しとす

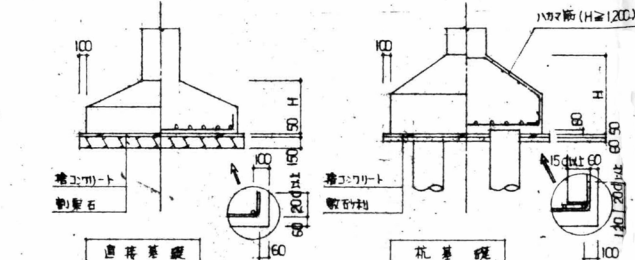


b. 大梁との取合い



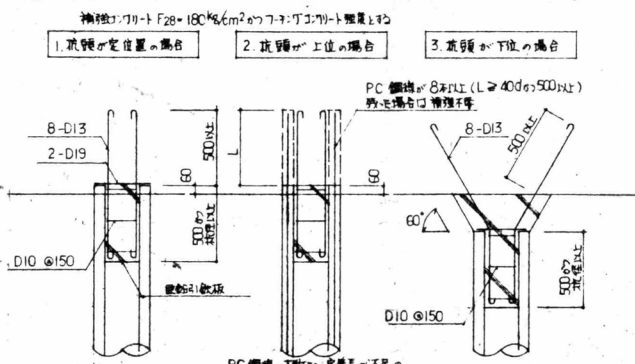
10. 基礎

a. 配筋



(i) 基礎の斜め補強筋は基礎の2辺の各々150φ取付の場合に3φ以上の主筋と併用し又はそれ以上の補強筋を挿入す
(ii) 7-7寸法 Hφ1200以上の場合はハカマ筋D13φ300(縦横両方)を挿入す

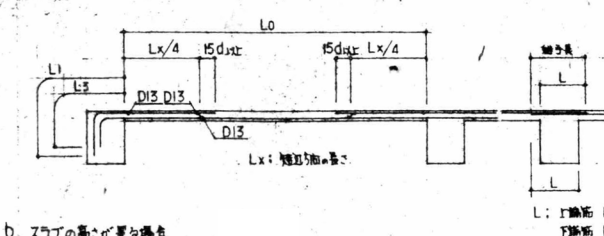
b. 基礎処理



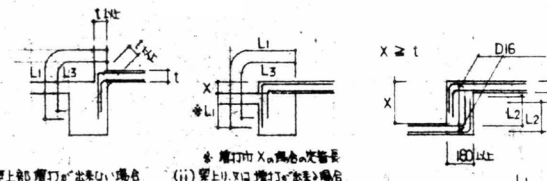
(i) 基礎内部の外部へは引出しとす

11. スラブ

a. 配筋



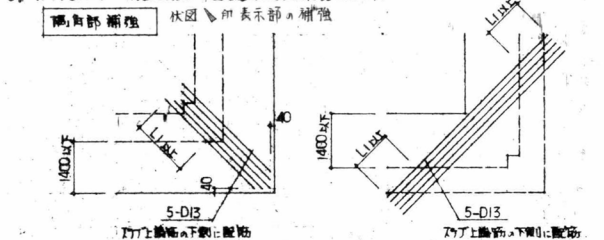
b. スラブの厚さの異なる場合



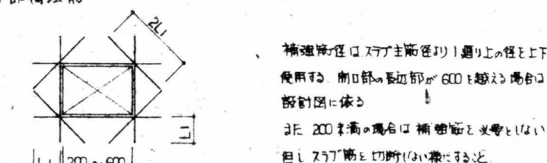
(i) 厚さ上部層が異なる場合 (ii) 厚さ下部層が異なる場合

以下の場合はスラブに引出し
ハカマ筋は最小厚さ以上とする
筋は3φ以上の筋とする

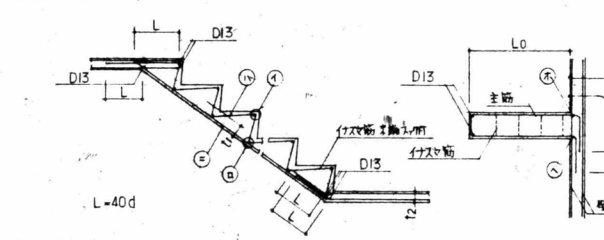
c. 持ち出しスラブ (持ち出し長さφ400を超える場合は筋配に依る)



d. 廊下部補強筋

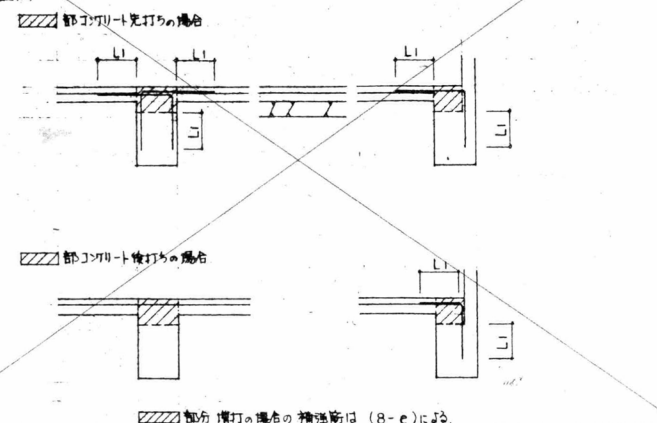


e. 階段



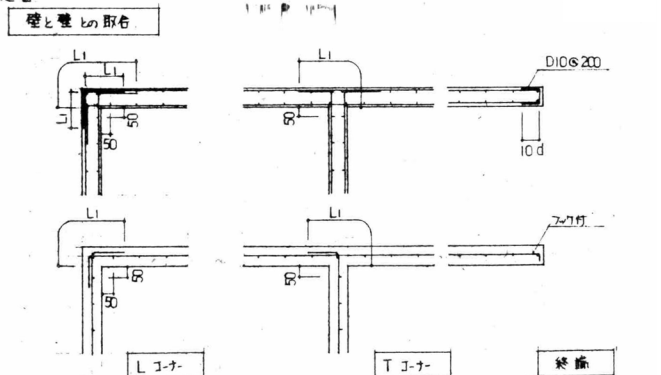
L0	厚さ	鉄筋	補強筋
1000 ≥	t1 150	1-D13	1-D10
1500 ≥	t2 150	1-D13	1-D10
2000 ≥	t3 150	1-D13	1-D10

f. 土間

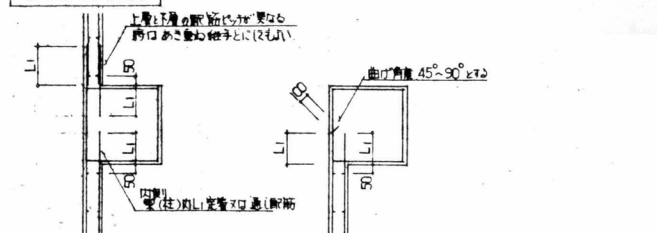


12. 壁 (壁式構造に除外)

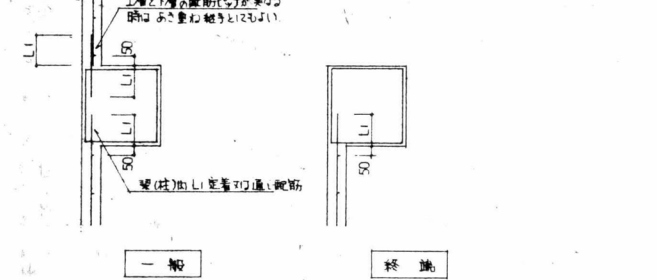
a. 定着

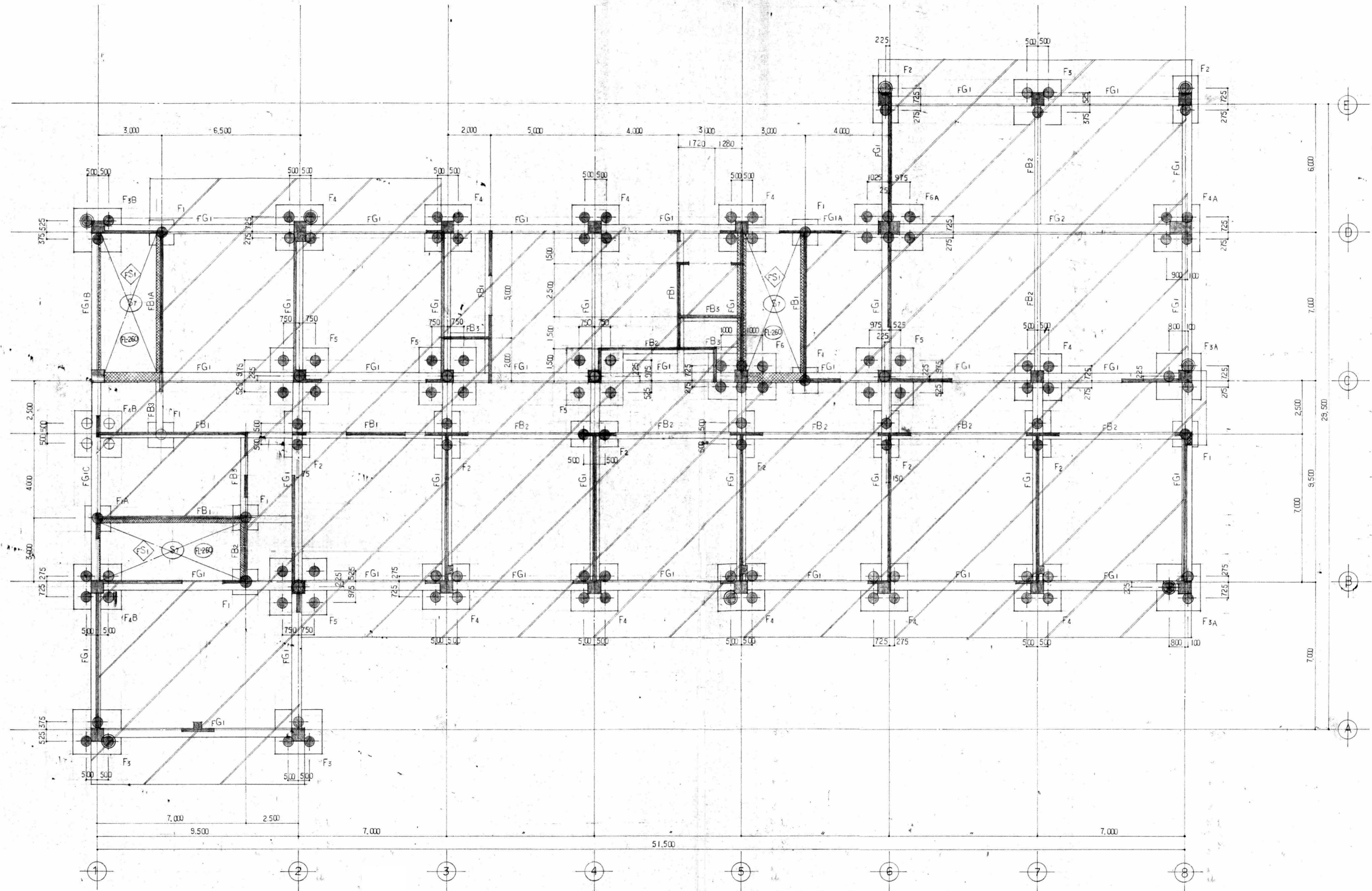


b. 壁と梁(柱)の取合い

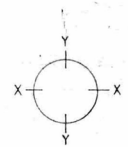


c. 一般





基礎伏図 1/100 注) 杭伏図を兼ねる



共通事項	
1 使用材料	
コンクリート	— Fc=210kg/cm ²
鉄筋	— SD30 (D19以上はガス圧接とする)
2 杭仕様	
杭種	— PC杭 (A種)
杭径	— 500φ
杭耐力	— Ra=25t/本 (長期)
杭長	— L=16,000m (上杭8,000+下杭8,000)
工法	— アースオーガーセメントミルク注入工法 (GLまでセメントミルク注入) モンケンにてGL-1,250を杭天端とする。
● 左記表示は試験杭 (10ヶ所) を示す。(ヤットコ使用してモンケン落下により調査)	
○ 杭本数 131本 (内、68本撤去 杭撤去範囲図参照)	

3	左記表示は、土間コンクリートを示し Fc=150kg/cm ² 配筋D10#250 シングルクロス ア150、乗石 ア150とし土間天端は意匠図参照とする。
4	S7 床版天端は、FL-100 (GL+350) とする。
5	左記表示部は、ピット範囲を示し ◇内符号は下部底盤の符号を示す。
6	地中梁、地中小梁天端は、GL-100とする。
7	左記表示は、増打コンクリートを示す。

工事名称	旧石川保育所解体工事	
図面名称	基礎伏図 杭伏図	S=1:100 (A3版 S=1:200)
設計者	キタイ設計 (株)	一級建築士 第319755号 小川龍二
図面番号		C-03